



更女しまね

第10号 2023.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



菅原天満宮

菅原天満宮は、菅原道真公の誕生の地と言われる島根県松江市宍道町にあります。道真公は学問の神様ともよばれ、受験祈願、学業成就などでたくさんの方々が参拝に訪れます。

「東風吹かば
主なしとて
春な忘れず」
梅の花

出雲五色天神

「出雲五色天神」は、学問の神様として知られる天神さまを五色に彩ったもの。五色は儒教の五常の礼節「仁（黒）・義（青）・礼（白）・智（赤）・信（緑）」を表しています。



斐川更女出西支部では地域の子ども達にいわれを話し、一緒に人形の彩色をしています。

しらふじの図書室



松江保護観察所

所長 藤井 淑子

島根県更生保護女性連盟の皆様方には、平素から犯罪や非行のない明るい地域社会をつくるために、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

本年4月から松江保護観察所で勤務することになり、更生保護施設「しらふじ」を訪ねました。施設名の由来となった白藤が植えられていることは知っていましたが、施設を訪ねるのは初めてでした。しらふじの施設を案内していただくと、屋内に洗濯物干し場があり、これが山陰らしさなんだろうと思うとともに、立派な図書室があるのを見て驚きました。これまで、いろいろな地域にある更生保護施設を訪ねましたが、図書室がある施設はなかったと思います。そもそも更生保護施設は、刑務所等を釈放された後、親族などを頼ることができない人が自立するまでの間お世話になる施設であり、就労して自

立資金をため、早期に自立することが求められています。このため、事務室、居室、食堂、集会室等については設ける必要があるのですが、図書室は設ける必要があるとはされていません。しかし、しらふじには立派な図書室があり、図書も目を見張るほど充実しています。これは、島根県更生保護女性連盟が結成以来、脈々と続けられてこられた「愛の図書」のおかげであることは言うまでもなく、更生保護施設が、ただ仕事をして寝て、お金を貯めるためだけの場所ではなく、情操をはぐくむことができる場所になっていることに、本当に感謝申し上げます。

島根県では多くの方々に更生保護女性会の活動にご参加いただき、子育て支援や青少年の健全育成のための活動や社会を明るくする運動を活発に行ってきていただいております。新型コロナウイルス感染症の蔓延によって生じた新たな地域の課題にも応えながら、今後とも地域のニーズに応じた活動を展開していけることを期待しております。



頑張りすぎず楽しく

島根県更生保護女性連盟
会長 山脇 里美

令和5年コロナ感染症が5類に移行しましたが、変異株の出現で未だ収まりを見せていません。そして、今年の酷暑にゲリラ豪雨と続き各地区とも更生保護の活動に少なからず制約を強いられたと思われまます。

その中で、今年度は組織強化・親睦を深めるため4年ぶりに7月「会員研修」をサンラポーむらくもで開催いたしました。その折にお話し致しましたのは、任意団体として事業実施してきました日本更生保護女性連盟が一般社団法人日本更生保護女性連盟として法人格組織になり、事業を継承していくことです。

また、当日の研修に講師として被害者サポートセンターの三浦洋子事務局長をお迎えし、被害者の立場からの強く心に残るお話を伺いました。私たち

は犯罪をした人、非行のある少年の立ち直りを支援するとともに非行防止・健全育成・子育て支援等の支援活動をしています。被害者への心に寄り添うことも忘れてはいけません。そして、今回の研修会には県下各地域から結束と連帯意識の高揚に寄与しようという会員が集いましたので、「新しい時代に即した更女活動の広報活動」「地域との連携、協働活動」「幅広い世代・分野からの会員の人材を確保するためのつながり作り」のテーマについてグループ討議をしていただきました。結果、本当に時間が足りないほど沢山のご意見がでました。どうぞ研修で得られました気づき・知識をそれぞれの地区へ持ち帰り参考にされ、良き所を学び有意義に活用していただきたいと思います。

今年度の中国地方会員研修でも「ひろがる・つながる・つづける」がメインテーマでした。言葉どおり未来に向けて活動を、私達ほっとけないおばさんの精神で女性のしなやかさを活かし、それぞれの地域性に根差した多様な活動を、頑張りすぎないで楽しくやってまいりましょう。

★県更女事業 (令和5年度)

	島根県更生保護女性連盟	中国地方更生保護女性連盟	日本更生保護女性連盟
4月		理事会 (広島)	
5月	理事会 第72回“社会を明るくする運動” 島根県推進委員会		
6月			日本更生保護女性連盟一般社団法人 理事会・社員総会 日本更生保護女性の集い
7月	会員研修会 “社会を明るくする運動” 強調月間 (「愛の募金」活動)		
8月	人権・同和問題を考える女性の集い		
9月		中国地区更生保護女性会員研修 正副会長会 (鳥取)	
10月	新会員研修 「社会を明るくする運動」作文コン クール審査会		日本更生保護女性会員中央研修
11月	島根県更生保護事業関係者顕彰式典		日本更生保護女性会組織強化研修
12月	理事会 「愛の図書」贈呈式		
2月		正副会長会 (広島)	
他	「更女しまね」年1回発行 保護司・更女・BBS 連携強化研修 県更女常任理事会		

第 62 回「愛の図書」贈呈式を行いました

- 「愛の図書寄贈運動」は、県更女発足と共に始まった特色ある活動！
(罪を犯した人達・児童養護施設の子供達に思いやりの心と安らぎを！)
- 「立ち直り応援基金」(日本更生保護協会)に採用され、全国にも紹介！
- 新たに3カ所の児童養護施設(安来学園、双樹学院、聖煌寮)に寄贈！

《松江保護観察所で贈呈しました (R4.12.2)》



代表受領の松江刑務所・双樹学院様に贈呈しました

14カ所の贈呈先

- 松江刑務所
- 島根あさひ社会復帰促進センター
- 松江少年鑑別所
- 中央児童相談所
- 出雲児童相談所
- 浜田児童相談所
- 益田児童相談所
- わかたけ学園
- 女性相談センター
- 双樹学院
- 聖煌寮
- 安来学園
- しらふじ
- 島根保護観察協会

《各施設に出向き 贈呈しました》



松江児童相談所 様



出雲児童相談所 様



浜田児童相談所 様



安来学園 様



聖煌寮 様 (浜田)



県女性相談センター 様

※施設によっては、写真撮影の制限がありました

県更女 一日研修を行いました

(R 5. 7.20. サンラポーむらくも 76人参加)

☆研修のねらい ①更女の活動をさらに活発に、充実するものにしよう
②会員同士の親睦を深めよう

10:00 開会式

皇后宮御歌斉唱
綱領唱和



山脇里美会長挨拶



藤井淑子所長挨拶 (松江保護観察所)

10:20 講演

演題 「犯罪被害者の支援活動について」

講師 三浦 洋子様 (島根被害者サポートセンター事務局長)



参加者の声

○犯罪被害者サポートセンターの存在を初めて知り、更生支援と共に被害者支援の大切さがわかりとても参考になった。

11:45 昼食・休憩 …… どのテーブルも話が弾んでいました

12:40 情報交換 + 内容発表

テーマは ①どのような広報活動をしているか ②どのように地域との連携共同活動をしているか
③どのようにして幅広い世代や分野から会員募集をしているか



参加者の声 ○他の地区の取り組みや悩みを聞いて力をもらったので、地区会で広げたいと思う。
○話し合いがとても楽しくて、時間がもっとあればと思った。
○話し合いの参考にと実物を持参されている方があり、とても分かりやすかった。

サプライズ・・・最後に、熱のこもった情報交換をしたどのグループにもお菓子のプレゼントが!!

13:40 講評 藤井所長

14:00 閉会式



各テーブルに飾られた花々



中国地方更生保護女性会員 研修に参加して

広瀬地区

岡崎 憲枝

9月14・15日、鳥取ワシントンホテルで開催された標記の研修会に初めて参加しました。

私が最も感銘を受けたのは、鈴木庄市中国地方更生保護委員長の講話でした。法律などの固い話ではなく、まずご自身の幼い頃の体験、ことに更女のおばちゃん達との関わりから人と人のつながりの大切さを知り更生保護の道に進もうと思われたことから始まりました。そして、家庭崩壊から非行に走った少年や罪を犯した人の立ち直りには、誰かとの繋がりが必要であることを沢山の事例で話して下さいました。

さらに、更女の活動の幅は広くきりがなが、頑張りすぎず楽しむこと、～せネバ～やらネバ（納豆）ではなくて、やるにコシ（漉し餡）たことはない

いうくらいに、とユーモアにあふれたお話で締めくくられました。

分科会では、単独ではできない活動も、他団体との連携で可能になると教えられました。さっそく地区会で話し合い、「あいさつ運動」の仲間に入れてもらうことになりました。

この研修に参加したおかげで、他のグループから多く刺激を受け、私たちの更女は動き出しました。



鈴木委員長講話

実践報告

日本更生保護女性連盟中央 研修会に参加して

大田地区

森脇 岸江

朝夕めっきり寒くなった10月17・18日、東京のアルカディア市ヶ谷私学会館で開催された日本更生保護女性連盟中央研修会に参加致しました。全国各地より50名の会員が集まり、「更女活動の更なる推進に向けて」をテーマに心を一つにして充実した内容の二日間を過ごしました。

千葉景子理事長からは、「沢山の出会いには必ず学びがある。何事も自分の物差しで見がちであるが、たくさんの出会いにより人それぞれ違う生き方見方もある事を学んでほしい。お節介おばさんとして皆さんそれぞれ地域の主人公の気持ちで頑張ってください。」と励ましの言葉をいただきました。

続いて法務省保護局長からは、人との繋がりを大切に自分の生活を楽しみながら活動をして欲しいとお話でした。

さらに内閣官房孤独:孤立対策担当者からは、来年4月から施行される孤独:孤立対策推進法について説明がありました。ただ、この法律については全国的にはまだ浸透していないのではとの意見もあ

りました。

またこども食堂を初めて開かれた方からは「地域を変える、子供が変わる、未来を変える」と題してお話を聞きました。小さな子供の一言に耳を傾けたことによりはじまった子ども食堂は、全国に広がり大きな輪になっているとの報告でした。

グループでのワークショップも開かれ、テーマとゴールを決めた人生ゲーム型の双六は参加者皆の士気と団結を促してくれましたし、休憩時間にも寸暇を惜しんで活動等の情報交換をしました。

この研修を生かして今後の活動に取り組みたいと思います。



ご支援への感謝

更生保護法人しらふじ
理事長 大野 美雄

高根県更生保護女性連盟の皆さまには、平素よりしらふじに深くお心を寄せて頂き、衷心より厚くお礼申し上げます。

しらふじは明治44年、松江市新庄町出身の津森百太郎翁が「高根授産会」として事業開始以来、110余年の星霜を閲してきました。その間幾多の困難に遭遇しながらも、その都度心ある人々に支えて頂き、現在は更生保護法人の認可を受け、罪を犯した人々の改善更生の最後の砦としての使命を担っています。

そもそも更生保護施設を帰住先として仮出所する人の中には、何度もなんども刑務所等の矯正施設に出入りし、親兄弟、親戚、知人等の引受人がなく、止むを得ずしらふじに来るという処遇困難な人が殆どです。

刑務所から出た後、住むところもお金もない状況で、「自己責任で社会復帰して下さい」と突き放しても路頭に迷ってしまいます。また、「助けて」と言えずに我慢して我慢して、どうにもならなくなって再犯をしてしまう人もいます。誰でも一人ではしんどいものですし、刑務所出所者なら尚更です。そこに少しの手助けがあれば社会復帰に近づきます。

しらふじは収容定員20名、100パーセント民間

の施設です。平均在所期間は約70日、その間衣食住を提供し、改善更生プログラムに基づいて生活指導し、協力雇用主の事業所で働かせていただき、自立のための資金を蓄えていきます。多くの利用者が感謝しながらしらふじから巣立っていきますが、中には再び罪を犯してしまう人がいるのもまた現実です。折角多くの方が更生の手を差し伸べているのに、報いることもなく逮捕の知らせを聞くと、徒労感と脱力感を抱くこともあります。しかし、それでも人は何時かは変われると信じて、施設長以下8人の職員がまことに士気高く、日々の業務に精励しています。

犯罪の3つの要素は①幼年期の愛情不足、②長期の教育不足、③現在の貧困と言われています。更生保護女性連盟さまの物心両面にわたるご支援は、利用者にとって海よりも深い母親の愛情を感じる唯一のオアシスでもあります。どうか今後とも何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



母親の願いのこもった白藤

しらふじと更女のつながりを大切に

松江地区会長 深貝 登志子

松江地区更生保護婦人会（現女性会）が発足したのは、昭和34年のことと聞いております。この64年間の活動を振り返れば、更生保護法人「しらふじ」とつながりを持つことができるのは松江という地区の強みであると言えます。

記録によれば、しらふじとのつながりは会発足間もないころからであり、奉仕活動が中心でした。奉仕活動は今も続いており、衣類の整理や松江工業高校の生徒さんからいただいた作業服のネームはがしなどを行っています。平成になり、施設利用者と直接の交流活動を希望される会員の声としらふじのニーズが相まって、一つずつ支援活動や交流活動が増えてきました。そ

れらについて一部紹介をすると、平成15年に一支部（城北）の活動から始まった月1回のカレー作りは、全支部が交代で活動するようになりました。この活動にはBBS会員も参加しています。また平成16年からは、利用者さんと一緒に、雑誌等から写真や絵を自由に選び、ハサミで切り取って画用紙に貼っていくというコラージュ活動を月1回しています。利用者さんとの交流の場であり、コラージュを介してコミュニケーションがしやすくなるメリットがあります。さらに、平成19年からは、しらふじお月見会を開催して、おにぎりやぜんざいを作って一緒に食事したり、カラオケをしたりしているところです。このような活動を通じて利用者さんに喜んでもらうことが更女の喜びにつながると考えており、先輩更女の皆様の心をつないでいくことになるので、大切な活動だと思っております。

島根あさひ社会復帰促進センター開所15周年を祝って

島根あさひ社会復帰促進センター長 田中 秀樹

当センターは、平成20年10月の運営開始以来、今年で15年の節目の年を迎え、8月26日及び27日の両日、島根県立大学講堂において、「島根あさひ社会復帰促進センター開所15周年記念フォーラム」が開催されました。島根県内の更生保護女性会の皆様を始め、多くの方に参加していただき、盛大に実施することができましたことに対し、心より感謝申し上げます。

当センターは、官民協働のPFI施設として、国と民間の職員が力を合わせて、先駆的な再犯防止の取組を進めてまいりました。開所以来、地域の皆様の変わらぬ温かい御支援の賜物であると思っております。

当センターの基本方針として、「官民協働の運営」、「人材の再生」、「地域との共生」の3つを掲げておりますが、「人材の再生」については、民間事業者の豊富な知見により多様な教育・指導プログラム等を実施し、地域の皆様にも参加していただき、一緒になって訓練生の改善更生を支援してきました。フォーラムでは、このような地域ぐるみの支援が当センターのこれまでの取組の大きな成果につながっていることを改めて実感しました。今後は、「拘禁刑」の創設を見据え、引き続き地域の皆様の御支援をいただきながら、再犯防止の取組をさらに充実させ、訓練生の特性に応じたきめ細かな処遇を実践し、

再入率を低下させるなど、安心・安全な地域社会づくりに貢献したいと考えております。

また、「地域との共生」についても、フォーラムのテーマであった当センターの可能性を広げる上で重要な課題であると認識しております。当センターで勤務する官民職員の専門性、訓練生による社会貢献作業や社会奉仕活動、センターの恵まれた施設・設備などを大いに活用し、地域のコミュニティーの拠点として、地域の問題解決や活性化にもお役に立てるよう、職員一同、全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き御支援・御協力のほどお願い申し上げます。



開所15周年記念おめでとうございます

島根県更生保護女性連盟 会員一同

浜田あさひ社会復帰促進センターの開所15周年おめでとうございます。『人が人として明るく社会参加をして生きていく。』口で言うのは簡単ですが、皆それぞれ色々な道を歩みながら助けられたり助けたり、また軌道修正したりの日々と思います。

文通・幸せを呼ぶフクロウ贈呈・学校給食のパンの提供などの様々な地域交流をしていっしょに貴センターは、島根県内はもちろん全国でも有数の施設と知られております。2008年の開所に先駆け、2004年に中央関係機関への申請・陳情に元島根県更生保護女性連盟会長が同席しておりました。このような大切な席に臨ませていただけたことは更女会員の誇りと思っておりますと同時に、今後とも末永く貴センターの充実した活動に微力ながら協力することをお誓いいたします。おめでとうございます。



シトラスリボン贈呈

“こころ一つに…”

結成60周年記念に寄せて

結成60周年記念の集いを終えて

大社地区更生保護女性会
会長 川上 清子

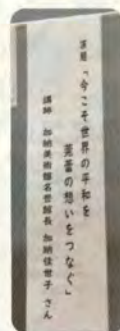
去る5月25日、美しい緑の木立に囲まれた“うらら館”を会場に、松江保護観察所藤井淑子所長をはじめ、来賓の皆様をお迎えし、大社地区更生保護女性会結成60周年記念の会を開きました。

オープニングセレモニーに、出雲市を中心に活動しておられる5人の音楽グループ“ママサンプル”に演奏をお願いしました。フルートやピッコロ、ピアノの美しい調べにボーカルも加わり、“やさしさに包まれて”で始まり、竹内まりやさんの“いのちの歌”で締めくくり。リーダーは会員の娘さんで、常日頃からお母さん達の働きを見ていて、この日の更女会にぴったりの曲を選曲し、私たちにエールの意味でプレゼントくださった、格調高い素晴らしい演奏でした。会場は、



しばしその余韻に浸りました。

その後、来賓の皆様からご祝辞をいただき、続いて、安来市加納美術館の名誉館長加納佳世子様に「今こそ世界の平和を」と題して講演をいただきました。大戦後、父親の加納莞菴さんの人生をかけた平和への想い・願い・行動を彼の足跡を辿りながら熱く語られました。日本軍に妻や子ども達を殺されたフィリピンの当時のキリノ大統領に日本人戦犯十数人の命の赦しを請い続け、ついに赦免を得るに至ったお話でした。ズシンと胸に響く重たいものを感じました。



この日の会場は数年ぶりに使わせていただきましたが、職員の皆様が準備や片付けを率先して、献身的に手伝ってくださり、大変スムーズに会が進行しました。まるで大家族のような雰囲気でした。これも日頃から会員と交流があり、私達の活動を知ってくださったからではと思いました。そして何よりも、みんなが決められた役割以上の行動で会の成功をサポートし合ったことにより、お互いの強い絆を感じた温かい一日になりました。

ほっこりサロン

安来地区更生保護女性会
会長 倉本 洋子

安来地区更生保護女性会は発足60年を機に、新しい試みとして、令和4年度から子ども食堂「ほっこりサロン」を立ち上げました。少し紹介します。

子供たちの健全育成、地域の見守り等をかねて始めました。令和4年12月26日、冬休みの期間にも関わらず、大人たちも含めて60人の参加がありました。献立は、カレーうどんと3種類のおにぎりです。何度もおかわりする子ども、家族で美味しく食べている子どもの姿を見て微笑ましく思いました。帰りには「美味しかったです。有難うございました」とお礼を言って、お菓



子のお土産を手に笑顔で帰る子供たちに、逆にこちらが元気をもらいました。これも保護司会の皆様に駐車場係をお願いしたり、大勢の方々のご協力を頂いたりしたおかげで実現できたと思います。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



高齢化等で更女の会員数が減少する中、子育て世代の若いお母さん方に会員になってもらいました。そのお蔭で、次々と新しいアイデアが生まれ、いろいろな意見が出、会員同士の交流会、子ども食堂も開催することが出来ました。

子ども食堂「ほっこりサロン」で、会員同士の会話も増え、親睦が深まり、絆が一層強くなりました。第2回目を夏休みに企画していますが、今後は、校区の理事さんを中心に、年2回を目標に安来地区更生保護女性会の活動として根付く事を願っています。

創立60周年に

伯太地区更生保護女性会
会長 為国 角

伯太地区更女はコロナ禍前は細々ながらも空き缶拾い、保育所の芋苗植えの補助、収穫などの活動もしてありました。コロナ禍で中止となりましたが、窓掃除だけは現在まで続けております。又、親子運動会、ひな祭り、クリスマス会など、保育所の交流も行っておりました。



50周年の時は、記念品を配り、共に思い出を話し合いました。60周年記念をどうするかを改めて会員とも話し合い、4集落で開いていた「ミニ集会」を今年は中止し、地区合同で研修会を開催しようと考えています。具体的には更生保護法人しらふじ様が、昨年社会貢献者表彰を記念して作られた「聞こえますか かっこうの声」の執筆者、川井昭一様にお話をして頂く案が出ているところです。

なかなか思うような活動は出来ませんが、地道に一步一步、会員力を合わせて進めていきたいと思っています。

しまねの更女 交流会

佐田地区&斐川地区出西支部

R4.12.16

長年の願いでありました交流会を佐田地区6名、斐川地区出西支部6名で斐川環境学習センターにて開催致しました。



本のカバーで作ったエコバッグ

お互いはじめてあったような気がしなかったわ

お弁当の味・量共程よかったし……

あのコーヒー、大根の酢漬け、若芽の茎のキンピラ…おいしかった!!

活動することによって一段と団結力が増していくような気がするね

大田地区&邑智地区

R5.2.17

交流会のお誘いに感謝 大田地区 森脇 岸江

昨年、大田地区更生保護女性会を設立し、皆様に事前準備のご指導を受け、会員と暗中模索の中スタートし1年となりました。そんな中、邑智地区の会長さんから「交流しませんか」とお誘いを受けました。「私達大田地区は、できただけで何もお話することがありません」とお断りしましたが、「大丈夫ですよ」と言っただき交流会を行うことができました。大雪のため日程変更を重ね2月17日、大田地区更生保護サポートセンターにおいて、邑智4名、大田7名で行いました。自己紹介のあと、私達は聞きたいことばかりで質問攻めでした。活動についてから始まり、愛の募金について、保護司さんや地域との関わりについて等々。皆さん保護司経験者で素晴らしい方々で、たくさんの質問に快く答えてくださいました。

その中で、新1年生にペンギンのマスコットを贈っているお話を聞き、これは私達にもできるのではと秘かに計画しているところです。次回は、大田から邑智にお邪魔させていただきたいとお願いして実り多い交流会を終えました。私達の願いは犯罪や非行のない社会になってほしいということです。まだわからないことたくさんの大田地区ですが、研修を重ね更女会員同士が仲良く共に活動することも大事だと、今回の交流会を通じ感じました。



江津地区&益田地区

R4.11.7

益田地区と江津地区の交流会 江津地区 三浦 ミナコ

益田・江津地区合同研修交流会が、益田市福祉センターで行われました。会場に入るや前面にいく鉢もの華やかな生花が活けられ、会員の温かい出迎えを受け、交流会の開始となりました。

益田市更女の方々は、各地区の取り組みを発表され、それぞれ地域に即した工夫がなされていてとても参考になりました。江津市更女の活動発表は紙芝居「ミミちゃんの手と手と手」を実演。大きな拍手を頂き、そして会員の腹話術で会場が和み、笑いあり、「健康マーチ」の大合唱でさらに盛り上がりしました。午後からの研修に保護監察官上谷淳子様「これからの更女に求められること」と題した講話を聴きました。

「様々な形で声かけをしよう。ボランティアができるのは幸せな人、地域のニーズをくみ取って、仲間と『地域を編もう』『経験は財産である』等の話を聞き、更生保護の原点に立ち帰り、心を洗われた思いで「やるぞ」との意を強く致しました。

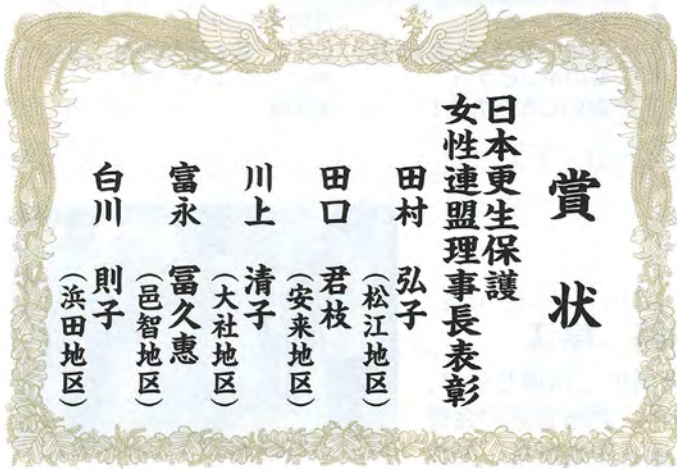


令和5年度 表彰おめでとうございます

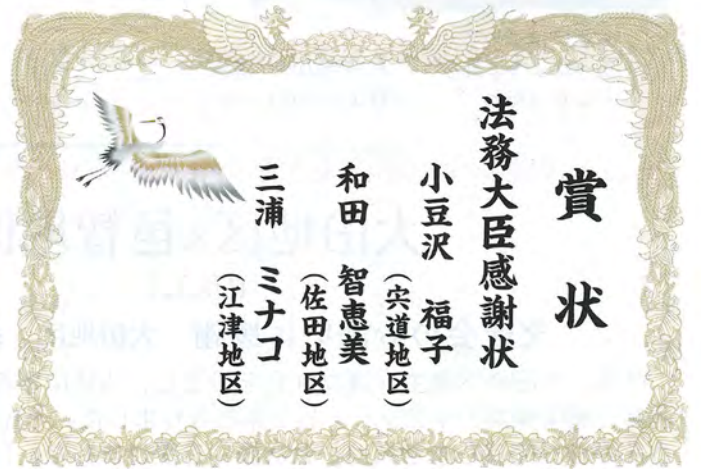
令和5年6月30日（金）にアルカディア市ヶ谷私学会館にて第60回“日本更生保護女性の集い”が開催され、法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟理事長表彰が行われました。

11月7日（火）に松江市で開催された「令和5年度鳥根県更生保護事業関係者顕彰式典」にて授与・伝達が行われました。また、同式典にて中国地方更生保護委員長感謝状・中国地方更生保護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状が各1名の県代表に授与されました。

令和5年度被表彰者



日本更生保護女性連盟理事長表彰（6月30日）（5名）



法務大臣感謝状（更生保護女性会員）（6月30日）（3名）

- 中国地方更生保護委員会委員長感謝状 23名
- 中国地方更生保護女性連盟会長表彰 29名
- 松江保護観察所長感謝状 141名



編集後記

皆様のご協力で「更女しまね」は第10号を数えました。改めて創刊号から振り返ってみますと、鳥根県内各地区では地域を思い、心の拠り所となるべく活動を続けていらっしゃいます。

また、巻頭には全国に誇れる文化を掲載し、会員諸姉が地域の発展のため、また次代を担ってくれる子どもたちに文化の伝承を続けてくださっていることが見えます。

本年、県更女連盟と深いつながりのある更生保護法人しらふじは、全国第58回社会貢献者表彰を受賞なさいましたし、鳥根あさひ社会復帰促進センターは開所15周年をお迎えになりました。これからも更生保護活動が益々充実いたしますことを願います。（佳）

編集委員長 江角 佳子
 編集委員 山脇 里美 板倉 靖子 成合 千恵
 樋野 淑美 杉山 悦子
 題 字 鐘築 章恵

